

香取遺産

Vol.95

園生涯学習課

☎(50)1224

安興寺の大杉

境内にそびえる天然記念物



▲安興寺の大杉(岩部)

市内には、古木や森など6件の天然記念物がありますが、その一つ、岩部の安興寺境内に立つ大杉は、旧栗源町で指定文化財第1号となった名木です。昭和50年に指定されました。公称では、樹高約50m、胸高周囲5・5m、樹齢は推定400年となります。

近年、樹木医による専門調査を行った結果、樹高は28m、胸高の周囲は5・65m、根元周囲は6・7mを計測しました。また、枝下の高さは6・7mで、枝張りは北へ12・8m、南へ13・9m、東へ10・2m、西へ11・8mです。

真つすぐに伸びた幹と、そこから四方に張り出した湾曲した太い枝、縦に深く刻まれた樹皮が、古木の力強さを感じさせます。遠望すると周囲の樹木よりも頭一つ抜き出ていることがわかります。

正確な樹齢は不明ですが、

言い伝えでは、当寺20世の日秀上人(寛文6年(1666)遷化)が、天下泰平・国家安穩・五穀豊穡を祈願して植樹した若杉が、この大杉になったといわれます。

安興寺は、山号を東光山と称する日蓮宗寺院で、本尊は釈迦如来です。寺伝によれば、当初は律宗のお寺で千葉山勧請寺を称していましたが、その後、元徳2年(1330)に平賀・本土寺(松戸市)の日傳上人により改宗し、寺名も改称したとあります。

当寺に伝わる仏涅槃図は、画面縦336cm、横230cmの大幅で、墨書銘文から享保16年(1731)日頭の筆になるものです。お釈迦様が入滅した様子を描いた、彩色鮮やかな作で、毎年2月15日の涅槃会に本堂内陣に掲げられます。平成11年に市指定文化財に指定されました。